

頑張る

農業法人

南丹市八木町諸畑地区の5集落、48戸の農家で2009年1月に結成し、地域農業を支える農事組合法人「木喰の郷もろはた」。圃場整備で1畝規模の大区画圃場が誕生したことから、ほとんどが兼業の農家が参加している。農地の半数を集積して水稲を中心に小豆、大豆など土地利用型作物で経営する。

後、水害が絶えなかった地区内を流れる天井川である官山川の改修と、小規模圃場の整備を目指し93年に諸畑地区圃場整備協議会を立ち上げ、行政に要請活動をしてきた。04年に、同地区を含む周囲4地区で圃場整備が始まり、川上である同地区は昨年度に面工事がほぼ完成。42畝内に1区画1畝の広い圃場が半数ほど誕生した。

しかしながら、高齢化が進み、地区内の農家のほとんどが兼業農家。整備された圃場を有効活用するためには、農業法人が必要とする気運の高まりと、品目横断的経営安定対策に加入したことから、法人化準備委員会を立ち上げ、わずか半年という短期間で同町初の法人設立にこぎつけた。

もくじき 木喰の郷もろはた

南丹市八木町

地区の兼業農家集結



諸畑地区の田畑を守る法人の明田代表(左)と竹井理事

圃場整備完成で農作業を受託

オペレーター部の年代構成は20〜50代と若く、法人化を機に農作業に参加するようになった。単に農機作業だけに終わらせず、必要な資格取得をはじめ、自らが考えて作物に応じた施肥等を行なうようにしており、法人の後継者として期待されている。作業部は、高齢女性が収穫などの軽作業で賃金を受け取ることができ、喜ばれている。

さらに「南丹おいしい食の応援隊」消費者組織の農業体験を受け入れるなど、地域の魅力アップにも力を入れる。

明田さんは「法人として収益だけを目指すのではなく、高齢化の中、農地がなくなれば地域が崩壊するので、農地を守り次世代につなげたい」と元気に語る。兼業農家がほとんどだけに、専業組織は地元保全の拠点となる。

▽法人の所在地 南丹市八木町諸畑松本32の4
電話 0771-422485

法人理事で総務担当の竹井勝さん(67)は「地区の農家は農地を守りたい気持ちもあり、法人化は順調だった」と語る。

役員5人で代表は明田卓さん(69)。従業員はオ

ペレーター部20人と作業部女性14人。利用権圃場面積は21畝で、水稲を中心に、大豆、京都大納言小豆、丹波黒大豆、大豆、小麦などを栽培。また個人農家からの作業受託も

水稲は、バイオテクノロジーセンター由来の液肥と堆肥を使用した有機栽培で、エコファーマー認定も取得する。地区女性加工グループと連携し、大豆のみそを造るなど加工にも力を入れる。